

令和5年度学位記授与式 学長式辞（令和5年3月18日）

春本番の季節となり、今年も新たな旅立ちの日を迎えることになりました。まずは、皆さんの努力が実って学位を取得し、卒業・修了の日を迎えられましたことを、大学役員、教職員一同心よりお祝い申し上げます。もちろん、本日を迎えることができたのは、ご家族をはじめ周囲の方々の応援があつてのことです。皆さんはそのことを、くれぐれも忘れないでください。また、ご父母の皆様方におかれましては、ご子息・ご令嬢のご卒業を心よりお慶び申し上げます。

皆さんが本学で過ごされた期間のかなりの部分は、新型コロナウイルス感染症が蔓延・拡大し、世界中がこの未知の脅威をめぐって大きく揺れ動いた時期と重なります。また、現在世界は、ロシアによるウクライナ侵攻と戦争の長期化、国際的な物価の上昇、気候変動による災害の多発などにより揺れ動いており、先を見通すことが困難な状況となっています。実際、私たちを取り巻く社会は目まぐるしく変動しており、例えば人工知能(AI)などの技術革新により、いま行われている多くの職業における仕事の内容や質などは、近い将来、少なからぬ変化を余儀なくされるものと思われまふ。

こうした変動著しい社会の中で力強く生き抜くためには、卒業後も学び続ける強い意志が必要です。皆さんが本日授与される卒業証書とは、この後も学び続けることができる力を身につけたことの証明でもあると考えてください。

さて、いよいよ社会に出る皆さんが最初に行うのは、一見つまらなそうに見える仕事、平凡な作業のくり返しかもしれません。しかし、そこに何か改良の余地はないものかと少しずつ工夫してみることが大切です。毎日の前向きな、そして小さな努力の積み重ねが、誰もが認める大きな成果に結びつき、皆さんの人生において豊かな未来を切り開いてくれることになると思つています。

また、コロナ禍の中、社会の分断と対立は深まったと言われまふ。現代は、忍耐、寛容、共感といった価値観の重要性を、もう一度評価することが必要な時代なのかもしれません。社会に出れば、国籍、価値観、年齢、習慣などが異なる多様な人々と接し、ともに活動していく機会がさらに増えるはずでふ。皆さんには、相手の立場を思いやり、尊重した上で、共通点を探り、お互いを高めあおうとする姿勢を、保ち続けていただきたいと思ついます。

本日から皆さんは、本学の同窓生としての活躍が始まります。これからは、母校の発展のためにお力添えをいただけたらと存じまふ。成長した皆さんにお会いできる日を楽しみにしてまふ。何よりも、お体には十分気をつけてお過ごしください。駿河台大学は、皆さんをいつまでも応援してまふ。

本日は、まことにおめでとうございまふ。

令和5年3月18日
駿河台大学 学長 大森一宏